



闘牛場

ロンダの闘牛場はアンダルシア内で唯一、見学者が闘牛術、馬術、騎士道や古代武器を通して歴史に触れる事が出来る記念碑的な雰囲気を持っている。

博物館

滅多に見られない古代武器コレクションでは、ラージャスターンやベニチアの火縄銃、フランス国王の武器、18世紀マドリッドで鑄造されたものや、イギリス製、日本製、アメリカ製そして、狩猟用、競技用や名誉をかけた時の決闘に利用した多種の装置など、様々な時代の見本が展示されている。四世紀間にわたった騎士道の興味深い習俗の全景が見られる。

開館時間

8時～20時。

乗馬学校

ヨーロッパで最古の一つのロンダ王立乗馬学校は馬術の伝統を維持する保証された職業教育施設である。伝統的なスペインの馬術を教えるこの学校は馬術競技の分野の傑出した存在として、スペインのサラブレッドとスペインの競走馬に賭ける。

会議室

ロンダの闘牛場では敷地内の歴史に残る図書室を会議や講演会場に提供します。この特異なスペースには約300人を収容する事が可能で、会社の行事や社員表彰旅行の特別見学の場所としてもふさわしい。





機関

ロンダの王立騎士団は地元の貴族たちを編成して騎馬隊の軍事教練の維持を目的にしたフェリッペII世の勅令の呼びかけにより1572年設立された。今日では非営利機関として、ロンダ市の歴史的重要地区に配置された騎馬学校とすばらしい闘牛場はその起源に忠実に、協会のアイデンティティとして現存す。

機関の歴史とその広範な文化財がこれを維持、そして流布する計画の重要なテーマとなる。ロンダの王立乗馬クラブは今日、古文書、芸術品、文書、またクラブの歴史に関連する記録資料を回復するリーダーシップとして認知されている。これらの資料を整理し図書、古文書館を通して研究者が系譜、紋章学、闘牛術、騎馬術、有力者エリート達の社会学、紀行文芸やロンダの歴史に関する資料を利用することができる。

さらに、闘牛博物館、また馬具製造所そして古代火縄武器コレクションにて公開されている協会の歴史文化財と芸術品の全体がこの地区の重要な観光宣伝となり、アンダルシア州で一番多く見学者が訪れた記念碑のひとつになっている。

さらにこれらに、最近乗馬学校が得た古典馬術教練の記録をくわえなければならない。

文化促進プログラムの多種活動の中で特に大学生に賞や奨学金の授与、ロンダ音楽週間また協会の起源と真髄に関連するテーマに関する本の出版などが事業を完成している。





闘牛場

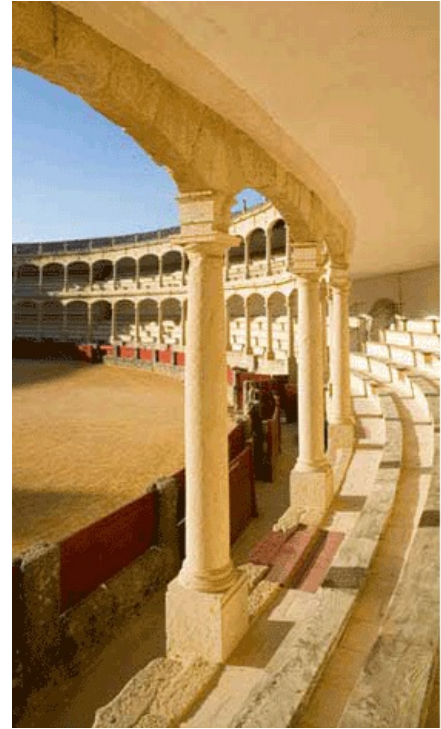
歴史的に見て、その構造上、そして特徴から、ロンダの王立闘牛場は他に比類のない特
有なモニュメントとしてロンダの主要な魅力ある観光スポットとなっている。この偉大
な建設には砂岩が使われ、周囲を取り囲んだ2段のアーケードや、全ての席に屋根を持
つという建築構造のすばらしさはショーのために利用する場所と言うよりも、むしろ修
道院などの回廊の気高さをもち、グラナダのアルハンブラに有るカルロス5世の宮殿の
円形の中庭を思い出させる。

直系6.6メートルの闘牛場のアリーナは石製の二重の柵が作る通路で囲まれ、平らなト
スカーナ様式の柱が60以上のアーチを構成している。

切妻形のアラビア風の屋根で覆われた内部の簡素な優雅さは他の闘牛場には比類なく、
感嘆すべきものである。

闘牛場では闘牛日程表の中でも最も重要な呼び物の一つであるゴヤ風の闘牛が9月のペ
ドロ・ロメロ祭の間に行われる。その上、数十年前からはアンダルシアで受賞した馬車
のコレクションの展示会もこの闘牛場で行われている。

闘牛場のイメージはここで闘牛術に感嘆した著名な芸術家達によって歴史に残ってい
る。アーネスト・ヘミングウェイやオーソン・ウェルズの名は巨匠アントニオ・オールド
ニエスの祭りの周りに集まった画家や建築家や著名な芸術家達の名前とともに残ってい
る。





博物館

闘牛場の一階席の下にある闘牛博物館では年代順に闘牛文化と闘牛祭の基本要素；闘牛の発祥、馬との関係、ロンダの主要な役割、ペドロ・ロメロやアントニオ・オールドニエスを筆頭する代々の闘牛士家系の王朝などを観ることができる。訪問者はゴヤやレイク・ブライス又ビクトル・アダムの『タウロマキア』のようなエッチング集、版画、リトグラフやイラストなどのすばらしい収集品や、17世紀から19世紀にかけての馬術に関する本や版画、そして闘牛士の正装束、ブロンズ像や道具のコレクション、または、アローヨ、バルセロ、カンパノ、フェイクス・デ・カルデナス、ダリオ・ヴィヤルバ、ヘレス・ヴィヤルタ、ウルクロなど著名な芸術家達が製作した最近の闘牛ポスターを鑑賞することができる。オルレアン朝の王立馬具製造所のコレクションにはフランス国王ルイスフィリップが息子であるモンパンシエ公爵に贈った装飾馬具、鞍、乗馬服の一式、それに、マルムークの鞍または19世紀のバリの工房で製造されたトルコ調の精巧な馬具革製品などが展示されている。

見学者は次にフィリップ4世とカルロス3世のオリジナル武器を含む300以上の古代式火縄武器のコレクションへと進む。コレクションには17世紀から19世紀のヨーロッパの火縄式短銃や衝撃式発射銃、そして火打ち石式又は、管打ち式の獵銃やライフル銃、また、ルイ14世、ナポレオンや英国の君主の武器、スペイン王位継承戦争で使われた火縄銃のように多種多様なしくみをもったベネチア、英国、またはインド風の多拳銃がみられる。

後に王立乗馬クラブのギャラリーでは、絵画、武器、軍服、版画や文書そしてイラストを通して、ロンダ市の歴史の中、それぞれの時期に主役的な役割を持った中世の軍隊と緊密な関係にある騎士道精神にのっとりこの機関の始まりに触れることができる。ロンダ闘牛場の歴史が残る雰囲気の中だけで唯一、闘牛術、馬術、騎士道そして古代武器など興味深い全体像が見学者に示しだされる/

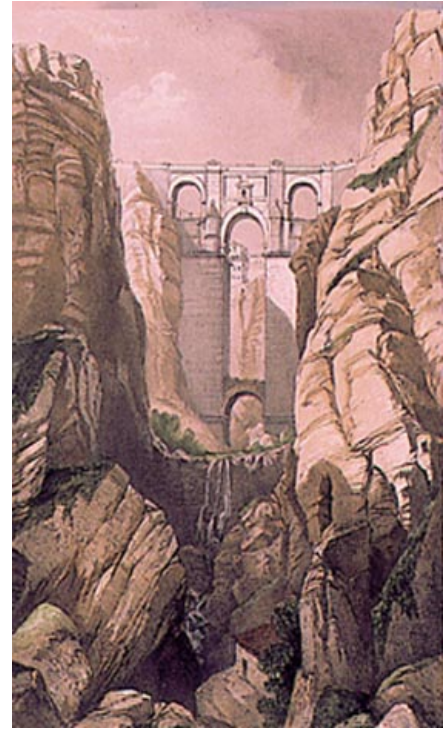




ロンダ

詩人、ライネル・マリア・リルケがささげた言葉、夢の町 がロンダの固有の象徴として町を紹介している。ロンダは海拔700m以上に位置し、周りを囲むニエベス山脈、グラサレマ山脈、そしてアルコルノカレス山脈には自然公園が密集している。グアダレヴィン川（アラブ語で WadiL- Laban、ミルクの川の意）はグアデアー口川の支流で町を区切り、タホという名で知られる、100mもの深さをもつ渓谷を描くロンダの4万人近くの住民は年間約3000時間の太陽と、平均気温15度の気候に恵まれ、これらの気候条件と、人々に感銘を与え歴史が残る風景は文化遺産として、またマラガやコスタ・デ・ソルから近いという点が、ロンダの町を重要な観光地区とし、旅行者にお勧めの観光スポットになっている。

[MAP](#)





インフォメーション

Servicios

インフォメーション
ガイドツアー
特別ガイドツアー
オーディオガイド: ドイツ語、スペイン語、フランス語、英語
会議室、講演
ショップ

開場時間と料金

1月-2月:	10時から	18時
3月:	10時から	19時
4月-9月:	10時から	20時
10月:	10時から	19時
11月-12月:	10時から	18時

料金

大人	6,50 €
大人 + Audio Guide	8,00 €
	オンライン販売

アクセス 道路距離

Antequera まで	90 km	
Málaga まで	105 km	
Algeciras まで	105 km	
Sevilla まで	120 km	
Jerez de la Frontera まで	160 km	
Córdoba まで	170 km	
Granada まで	180 km	
Madrid まで	570 km	

位置とアクセス

住所 Real Maestranza de Caballería de Ronda Calle Virgen de la Paz, 15 29400 Ronda Málaga
--

連絡先

電話:	+34 952 / 871539 (オフィス)
	+34 952 / 874132 (入場券窓口)
ファックス:	+34 952 / 870379
E-mail:	info@realmaestranza.org